



# よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

## 理事長閑話 うめ草③

～是枝裕和監督の作品 家族の<sup>ありよう</sup>を描く～



前回に続いて映画の話です。「万引き家族」、カンヌ国際映画祭でパロムドール賞に輝いた是枝裕和監督、常に子供に焦点を合わせ現実に鋭く切り込む社会派監督、私好みの監督です。私が是枝作品を初めて観たのは2004年、同じカンヌ国際映画祭で主演した中学生、柳楽（ヤギラ）裕弥が主演男優賞を受賞した「だれも知らない」という映画でした。

この映画も実話を基にしている、出生届も出してもらえなかった、父親の違う4人兄弟姉妹だけの隠された生活。母親に捨てられ、懸命に3人の弟妹の世話をする長男、明を柳楽が演じました。誰も知らない・・・この映画を見た後のザラザラした心象を今でも思い出します。だめな大人（親）と懸命に生きる子供達、定型化した構成のようではありますが、実話がベースと知る時、現代が何という時代か！また懸命に生きる子ども（人間）達のいじらしさ、健気さ。人は元来「善」なるものを性に持っているが、時を経てその心が曇り自己中の利己の心が克っていく。「至誠」とは本来人の持つ「善」を高めていく道なのです。

さて、「万引き家族」。社会からはみ出た大人と引きづり込まれた子供達、でも楽しく生きている擬似家族？小さな悪事＜万引き＞を繰り返す、子どもにテクニックを教えているリリーフランキーの能天気親父。きつい個性の樹木希林婆さん、安定感のあるお母さん役の安藤さくら。子役男の子役の城桧吏（カイリ）も良いけれど、母親に虐待されて家族と一緒に生活することになった6歳のゆり（佐々木みゆ）。最後のシーン、母親に引き取られたけど、男が尋ねてくると外に出され廊下で一人遊びをしているゆりに、あの目黒の結愛（ユア）ちゃんを思い出したり、自分の孫の同じ年の「ユリヤ」を思い出したり、心が乱れました。ともかく是枝監督の映画、文部大臣からの祝意辞退も彼らしい。現代の家族の闇、家族の中でも苛まれる個人。家族とはどういう機能と役割を果たせるのか、理屈っぽいけど考えさせられました。また考えさせるのが是枝裕和監督の作品なのです。

理事長 橋本正明

## 事業本部長メッセージ



平成 最後の夏…記録的危機的な暑さ等、異例の気象・災害が相次ぎ、地球規模での大きな変化の影響なのかもしれません。保育中の安全については「熱中症事故の防止」等の通達もあり、保育事業本部各施設、職員を含めた健康管理に特に注意し、努めています。

至誠福祉セミナーで理事長から、高橋常務をプロジェクトリーダーとする2020年度事業開始の、事業本部を越えた障害者福祉新事業の概要についてお話がありました。法人として“総合化、多機能化、包括化”への取り組みであり、新たな挑戦です。一方では以前にも触れましたように、梅丘分園の本園化総合計画の年でもあります。先日、整備予定地を視察。住宅街の中で園庭にはスイカが大きく育ち、金木犀の樹木等の周辺の自然に恵まれたすてきな環境です。法人としての取り組みである、分園独立園化と世田谷区立総合福祉センター後の児童相談所との連携・協働の機能を持つ「子育てステーション梅丘」の整備、こちらも“総合化、多機能化、包括化”へ、期待に応えしっかり取り組んで参ります。



整備予定地の視察  
H30.8.7

まだまだ気候変動の大きい時です。移りゆく季節の変わり目を感じながら、厳しかったこれまでの夏の疲れを癒し、年度後半に向け体調を整え乗り切っていきたいものです。皆様のご健勝をお祈りします。

保育事業本部長 稲永勝行

## 事業本部情報

### ♥児童事業本部♥

児童事業本部の幼児の子どもたちは、園内保育として開設している至誠学園の「モンテッソーリ立川子どもの家」に通っています。高橋田鶴子先生や和田上典子先生が、40年前に園内保育として始められ、その後地域貢献事業として地域の子どもたちへ開放されました。現在至誠学園から2名、至誠大地の家から12名の合計14名の子どもたちが通っています。卒園生には、法人関係者の子女も多くいらっしゃり、各方面でご活躍されています。

夏休み中は、年長児のお泊り保育やミュージカル観劇、先日はブルーベリー狩りに行き、現地では諏訪の森保育園の皆さんと一緒に。10月には運動会、11月は七五三、年末はクリスマス会、ひな祭りに卒園式と行事も多く、親御さんと子どもたちの成長を喜び、子どもの家の活動を通して家族支援への貴重な機会となっています。今年40周年を迎え、至誠学園後援会のご支援をいただいて記念アルバムを作成していきます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(モンテッソーリ立川子どもの家 園長 高橋誠一郎)

### ♥保育事業本部♥

至誠いしだ保育園は今年度で7年目を迎え、保育環境の完成と成熟を目指しています。

今年は春から季節先取りの暑さの日が多くなり、5月には夏の”酷暑”、“災害規模の荒天”予想が出ており、実際に暑さと水にまつわる災害が各地で多発しました。お悔やみ申し上げるとともに”備え”について再確認し、取組みを進めています。

”酷暑”は、保育活動にも大きな影響を与えました。戸外活動は新たに環境省の”熱中症予防情報サイト・暑さ指数(WBGT)・予測値”を確認し、なおかつ、園庭に設置した暑さ指数計測器の結果によっては園庭活動を自粛します。

さらに、水にまつわる事故対策として、プール活動には従来以上に”監視”の強化が暑さ対応と同様に指導され、”監視専門員”の配置無しにプール活動が出来なくなりました。

こうして戸外活動が縮小傾向にある一方、別の保育活動に変更するなど対応し、状況説明として実測値など掲示することで、保護者のご理解をいただけるよう努めておりますが、第三者評価では「戸外活動をしていない」、「運動量が少ない」などの声に繋がると予想され、頭が痛く熱が上がります。

(至誠いしだ保育園 園長 高橋 智宏)

### ♥高齢事業本部至誠ホーム♥

モノレール通りから一本入った静かな住宅街に、一見すると民家のような「至誠コミケアセンター」があります。H12年、故巨海昭子様のご遺志により「自宅を地域に役立ててほしい」というご遺志によりご遺贈いただき、改修後、事業を開始。3年前に建て直し、現在は介護保険の「訪問介護(ホームヘルパー)」と「居宅介護支援(ケアマネジャー)」の事業と、地域貢献事業の「いこいの場」を実施しています。介護保険の事業では、両事業所が連携し、相互作用で難しい対応も頑張っています。

「いこいの場」は、40名以上の登録、昨年の参加者延べ数が1200名を越える活動となりました。午後のひと時、日ごとに異なるメニューを楽しまれ、「コミ」を拠点とした新しい人間関係作りの場ともなり、定期的に来てくださる「諏訪の森保育園」の園児さんたちも皆さんの癒しになっています。

地域社会の繋がりが希薄になってくるなか、社会福祉法人の地域支援のあり方を体現し、巨海さんのご遺志にも応えられるよう地元を根を張りながら、小さな拠点ですが努力していきます。

(至誠コミケアセンター センター長 宮本智行)

## 本部事務局だより

新社会福祉法が求める内部管理体制の重要な要素の一つにリスク管理体制があります。よく「リスク」と言うと「危険」と解釈しがちですがこれは間違いです。逆に「危険」を訳するなら「デンジャー」か「ハザード」とすべきです。本来、リスクはリターンを得るために取らなければならない「不確実性」の事です。200の利益を得るために100の投資を行うとき、どのくらいの確率で損失を被るかという確率の問題なのです。リスク管理を理解していない人の中には「リスクをゼロにしろ」とかいう人もいますが、事務ミスや製造ミスをゼロにするZD活動(ゼロディフェクト活動)と混同しています。そもそも人間が活動する以上リスクをゼロにすることは不可能です。リスクをゼロにするには何もやらないことしかありませんが、黙っていても空から飛行機が落ちてくるリスクはゼロではありません。

つまりリスクには「取るに足らないものとして無視する」ものから「許容できない」ものまでいくつもの段階があります。また、その対処の仕方にも、①保険を掛けるなどして他に移転する、②安全対策を施して低減する、③リスクを回避する、など様々な方法があります。つまり「リスクの大きさ・影響度合を勘案して(リスクアセスメントして)対策を講じること」がリスク管理(リスクマネジメント)なのです。

(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集後>まだまだ暑い日が続きます。事務局前の駐輪場に、イカグリが幾つか落ちていることに気が付きました。季節は着実に秋へと進んでいるようです。